

保証期間：お買上げ日より1年間	販売店印
お買上げ年月日 年 月 日	<small>※商品お買上げ時必ずお買上げ日と店名の記入・捺印をしてください。お買上げ日・店名の無い場合は保証対象外になります。</small>
ご氏名	
ご住所	

—— 当社製品をお買上げいただき、誠にありがとうございます。 ——

ご使用に際し《保証規定》と《注意事項》をよくお読みになり、正しくお使いください。お読みになった後は、必要になったときいつでもご覧になれるよう必ず保管してください。

◎万一、本製品使用により生じた、財産・権利・利益等に関して、当事者又は第三者からのいかなる請求について、弊社では一切責任を負えませんので、予めご了承ください。

※保証書に記入されたお客様の個人情報（氏名・住所）は、修理品の管理・配送などの修理業務目的のみに使用いたします。

保証規定

※本保証書は日本国内のみ有効です。

通常のご使用範囲内で時計本体（ムーブメント・ケース）において、自然故障した場合の保証期間は、**お買上げ日より1年間**となります。
保証期間が過ぎた場合は**有料**となります。修理内容によって料金が変わりますので当社サービスセンターまたは、お買上げいただいた店頭にてお問い合わせください。
修理代金のお支払いは、郵便定額小為替が普通為替およびお振込でお願いしております。

【保証対象外の内容について】

下記の場合は保証期間内でも保証の対象外となり、当社規定の基本修理代金をいただきます。

- ①保証書が添付されていない場合
- ②保証書にお買上げ年月日、販売店名の記入捺印または、それに代わる保証開始時期を証明するもの（販売証明書やお買上げレシートなど）がない場合
- ③電池交換（お買上げ時に組み込まれている電池は、工場生産時に動作確認用に新しい正常な電池を組み込んでいますが、お買上げいただくまでの期間も作動し続けているため、お買上げ後、規格寿命に満たない内に電池容量が切れることがあります。）
- ④消耗・摩耗・汚損・破損・変色（メッキ・塗装・印刷のはがれ）などしたパーツの交換
- ⑤落下などの衝撃による風防やパーツの破損やキズ
- ⑥時計本体以外のパーツ紛失の取り付け
- ⑦時計内部に手が加えられていた場合
- ⑧性能範囲を超える状態での使用で内部に水が入っていた場合
- ⑨必要以上に酷使されていたと判断される場合
- ⑩その他当社の合理的判断に基づき有料と認められた場合

【修理部品について】

◎修理に際して、ケースや文字盤・風防・バンドなどは一部代替え部品を使用させていただきますことでもありますので、予めご了承ください。
※製造年数の経過した時計および製造中止の時計は場合により修理出来ないこともあります。

【修理品の送付について】

修理品を送付いただく際は、本体にキズがつかないよう、やわらかい布や紙などで保護し、当社サービスセンター宛に郵便にてお送りください。
修理のために時計を送付される場合、送料はお客様のご負担になります。また、修理品を送る際には送付と同額の返信用の切手を同封してください。

輸入発売元
株式会社 **サン・フレイム**
〒111-0041
東京都台東区元浅草1丁目6番15号

修理のお問い合わせ
時計サービスセンター
TEL.03-3842-3844
A.M.10:00～12:00 P.M.1:00～5:00
土・日・祝は休日です。



注意事項

【ご使用上の注意】

- ◎お買上げ時に風防・裏蓋・バンド・金具などに保護シールがついていることがありますので、はがしてお使いください。保護シールが貼られたままご使用になりますと保護シールの裏やすき間に汚れが固着してサビが発生する場合があります。
- ◎腕時計装着時に乳幼児を抱く時は、予め時計を外すなどして、けがや事故のないように充分ご注意ください。
- ◎材質によりかゆみ・かぶれを生じる場合がありますので、皮膚に異常を感じた時は、ご使用をお止めたいただき医師の診断を受けてください。
- ◎力仕事や激しい運動を行う際、けがや事故防止のため時計の着用はお控えください。
- ◎入浴時やサウナ、スキー場、登山などの極端な温度条件（高温・低温ともに）でのご使用は火傷や凍傷の原因になりますので使用はお控えください。
- ◎本来の腕時計としての使用目的以外でのご使用は、思わぬ危害を及ぼす場合がありますのでお止めください。
- ◎塗装や印刷などはご使用に伴い、変色・色落ちします。また、ケースやバンドなども経年劣化により色あせやひび割れなどが生じることがあります。

【使用環境と保管の注意】

時計内部には精密な電子部品が入っていますので、特に下記の事項にご注意ください。

- ◎分解はしないでください。故障・けがの原因になります。
- ◎落下や強い衝撃は風防や部品の破損・故障の原因になりますのでご注意ください。
- ◎使用温度範囲から外れた温度下で長時間放置しますと電池が漏液したり電池寿命が短くなる場合がありますのでご注意ください。
- ◎静電気を付けた場合に下記の様な不具合が生じることがあります。
 - *作動が停止する *デジタル表示が消える *液晶表示の異常
 - *ボタン操作の不具合 *電池容量の低下
- ◎ご使用にならないときは、汗・汚れ・水分などをよくふき取り、高温・低温・多湿の場所を避けて保管してください。
- ◎電池切れしたまま長時間放置しますと、電池の漏液により内部機械部品が損傷する恐れがありますので、早めに電池交換もしくは電池を外してください。
- ◎化学薬品などに近づけたり、水銀・シンナー・ベンジンなどの各種溶剤およびそれらを含有するものが付着しますと、変色・溶解・ひび割れ・変質の恐れがあります。

【お手入れ方法】

- ※腕時計は着用時に直接肌に触れています。汚れたままご使用されますと、皮膚の弱い方はかゆみやかぶれが生じる原因となりますので、下記の方法でお手入れをしてください。
- ◎ケース、風防の汚れや汗などはやわらかい布でふき取ってください。
- ◎プラスチックやゴムバンドは濡れた布で汚れをふき取ってください。（洗剤やアルコールなどはご使用しないでください。変色・変質の恐れがあります。）

【電池取り扱いの注意】

- ◎電池交換時には必ず電池に表記してある番号と同じ物をご使用ください。
- ◎電池を取り出した場合、誤飲の危険がありますので幼児の手の届かない安全な所においてください。万一飲み込んだ場合には、ただちに医師にご相談ください。
- ◎電池寿命が切れた場合は、お近くの時計販売店、または当社サービスセンターで電池交換を行ってください。
- ◎電池をショートさせたり、分解や加熱または、火に入れるなどはしないでください。液漏れ、発熱、破裂、発火の原因となります。
- ◎使用済み電池は各自治体の規定に従った方法で廃棄してください。
- ◎電池は絶対に充電しないでください。充電式ではありません。

製品仕様

- アナログ（3針時計）：平均月差±20秒以内（適正使用温度範囲5℃～35℃の場合）
- デジタル時計：平均月差±90秒以内（適正使用温度範囲5℃～35℃の場合）
- 使用温度範囲：5℃～35℃
- 電池寿命
 - ◎アナログ（3針時計）：新品電池を入れてから約2年
 - ◎デジタル時計：新品電池を入れてから約1年（電池のみで作動させた場合）（1日にELライト2回/アラーム1回使用目安）

※本製品は工場にて新品電池を組み込んでおりますが、お買上げいただくまでの期間も作動し続けているため、お買上げ後、規格寿命に満たない内に電池容量が切れることがあります。

- 使用電池：アナログ（3針時計）：ボタン電池 SR626SW x1個
- デジタル時計：リチウム電池 CR2016 x1個
- 製造国：中国

防水機能について

- 本製品は5気圧防水です。
- ※注意：激しい水圧が掛かると水が入り故障の原因になる場合があります。

5気圧防水	一時的にかかる水滴 (洗面・雨など)	水仕事	水泳	ダイビング
	○	×	×	×



ボタン操作のご注意

水中、または水に濡れた状態でのボタン操作は、時計内部に水が入り故障の原因となることがあります。手やボタン部分が濡れていないことを確認してからボタン操作を行ってください。

注意

- ・正しく安全にお使いいただくため、ご使用前に必ずこの取扱説明書をよくお読みください。
- ・お読みになった後は、必要となったときいつでもご覧になれるよう必ず保管してください。
- ・注意事項もよくお読みください。

取扱説明書

操作ボタン位置参照図

液晶タイプ①



液晶タイプ②



※本説明書は、液晶タイプ①と②の共通説明書です。
本説明書では、液晶タイプ①のデザインで図解説明をしています。
操作方法は液晶タイプ①と②とも同じです。

【機能】

- デュアルタイム機能(アナログ・デジタル) ■時刻、日付、曜日の表示
- ストップウォッチ機能 ■アラーム機能(再アラーム機能付き)
- 時報機能 ■ELライト
- 太陽光発電(ソーラー)の補助発電によってデジタル時計用の内蔵電池を補う省電力構造。
- 5気圧防水(水の中又は水滴がついた状態でボタンの操作はしないでください。)

【太陽光発電(ソーラー)時計について】

※太陽光発電の電力は、デジタル時計の作動電力にのみ使用されます。
デジタル時計は、通常リチウム電池の電力を使用し作動しています。
太陽光発電は補助電力として時計表示上部にある発電パネル部分に十分な光量を受けているときに発電します。

標準時刻表示



発電パネル



- 注意**
- ※発電した電力を本体に充電・蓄電することはできません。
 - ※アナログ(3針)時計は、別のボタン電池で作動しています。太陽光発電の電力は使用されません。
 - ※ELライト・ストップウォッチ・アラーム機能を使用する為にはリチウム電池の電力が必要です。太陽光発電の補助電力だけでは、作動できません。
 - ※時計表示上部にある発電パネル部分に十分な光量が得られない場合(衣服や袖の下に隠れてしまう等)は、発電が出来ません。
 - ※太陽光発電(ソーラー)は、晴天の屋外で発電パネルに太陽光が当たる場合は、ほぼ問題なく発電しますが、室内では光量不足で発電が出来ない場合があります。

【デジタル時計の見方】

- ・標準時刻表示では時/分/秒/曜日が表示されています。
- ・S1を押すと日付が表示されます。
- ・S2を押すとアラーム設定時刻が表示されます。
- ・S3を押すと表示モードが切り替えます。

【デジタル時計のELライト】

- ※太陽光発電(ソーラー発電)だけではライト機能は使用できません。
- ・S4を押すとELライトが光ります。

ELライトは電気を多量に消耗します。必要最小限のご使用をお勧めします。

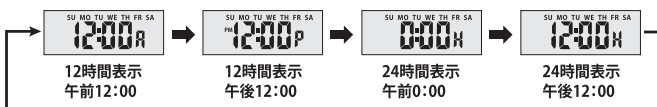
【デジタル時計の合わせ方】時刻/日付の設定

※時刻・日付の設定は下記の手順で行ってください。途中からの設定変更は出来ません。

- ①標準時刻表示の時にS3を3回押すと秒が点滅し、S1を押して00秒に合わせます。
- ②S2を押すと分が点滅し、S1で分を合わせます。
- ③S2を押すと時が点滅し、S1で時を合わせます。

※設定変更時にS1を長押しすると早送りできます。

S1を押し続けると12時間表示(午前:時刻表示の右にAを表示/
午後:時刻表示の左にPM・右にPを表示)
と、24時間表示(時刻表示の右にHを表示)を繰り返します。
12時間・24時間表示のいずれかで「時」を合わせてください。



- ④S2を押すと日が点滅し、S1で日を合わせます。
- ⑤S2を押すと月が点滅し、S1で月を合わせます。
- ⑥S2を押すと曜日が点滅し、S1で曜日を合わせます。

※設定変更時にS1を長押しすると早送りできます。

最後にS3を押すと設定を確認して標準時刻表示にもどります。

※月の切り替わりの日付は毎月自動で切り替わります。

※2月の日付は28日までしか表示しません。うるう年のみ、手動で他の月表示に変更し29日を表示してから、月を2月に変更してください。

【デジタル時計のアラーム設定方法】

※アラーム音は約60秒鳴ります。

※太陽光発電(ソーラー発電)だけではアラーム機能は使用できません。

①アラーム時刻の設定

標準時刻表示の時にS3を2回押すとアラーム時刻の時が点滅し、S1で時を合わせます。
設定を変更した時点でアラーム機能がON(入)になります。
S2を押すとアラーム時刻の分が点滅し、S1で分を合わせます。
S3を押すと設定を確認して標準時刻表示にもどります。

※設定変更時にS1を長押しすると早送りできます。

②アラームのON/OFF(入/切)設定

標準時刻表示の時にS2を押しながらS1を押すとアラームのON/OFF(入/切)ができます。アラームがONになっている場合は、ベル型のマークが表示されています。OFF(切)にする時は、ベル型マークを消してください。

アラーム音を止める時は、S2を押して止めます。

③再アラーム機能/アラーム音の一時停止

アラーム音が鳴っているときにS1を押して止めると再アラーム機能が作動します。アラームは約5分後に再び鳴り出します。
S1でアラーム音を止める度に、再アラーム機能が作動します。
再アラームを作動させない場合は、アラーム音をS2で止めるかアラーム音が鳴り終わるまでボタン操作を行わないでください。

【時報機能ON/OFFの設定方法】

※時報の時刻設定は出来ません。

時報設定がONの時、毎正時にチャイムが鳴ります。
時報設定のON/OFF確認は、S2ボタンを押して確認します。
設定がONの場合→曜日マークが全表示されます。
設定がOFFの場合→曜日マークが何も表示されません。
ON/OFF設定の切り替えは、S2ボタンを押した状態でS3ボタンを押してください。
S3ボタンを押すごとに、曜日マークが全表示と表示無しに切り替わります。

液晶タイプ①		液晶タイプ②	
時報 ON 表示	時報 OFF 表示	時報 ON 表示	時報 OFF 表示
全曜日にマークあり	全曜日にマークなし	全曜日にマークあり	全曜日にマークなし

【デジタル時計のストップウォッチ機能について】

※太陽光発電(ソーラー発電)だけではストップウォッチ機能は使用できません。
標準時刻表示の時にS3を1回押すとストップウォッチ機能になります。

ストップウォッチ機能では、2種類の計測が出来ます。

①計測操作 - その1

ストップウォッチ機能を表示した状態からS1を押してスタート/計測開始、もう一度押すとストップ/計測停止ができます。
計測を止めた状態でS2を押すとリセットされます。
最後にS3を押すと標準時刻表示にもどります。

②計測操作 - その2

ストップウォッチ機能を表示した状態からS1を押して計測をスタートします。
計測中にS2を押して途中経過時間を表示します。
その間もストップウォッチは計測されています。
そのままS2を押すと再び計測中の画面に戻ります。
S1を押して停止した後、記録を読みとります。
計測を停止した状態でS2を押すと計測前の状態にリセットされます。
S3を押すと標準時刻表示にもどります。

【計測時間の表示について】

※計測表示は、29分59秒99までは1/100秒まで計測可能です。

30分以降は1/100秒単位の計測は出来ません。

※最大計測時間は、23時間59分59秒です。これを過ぎると00:00:00に戻り計測を継続します。

【アナログ時計について】

アナログ時計の時刻合わせは、秒針が12時の位置に来たらリュウズを引いて秒針を止めます。リュウズを回して時間を合わせます。
設定時刻より分針を数分進めてから逆に戻し正しい時刻に合わせます。
時報サービス(TEL117)などに合わせてリュウズを押し込みます。

※アナログ時計とデジタル時計は連動していません。
クォーツ精度も異なるため、同じ時間に合わせていても秒がずれていきます。
※デジタル時計の機能とは連動していませんので、アラーム・時報などの機能はアナログ時計で設定も作動も出来ません。